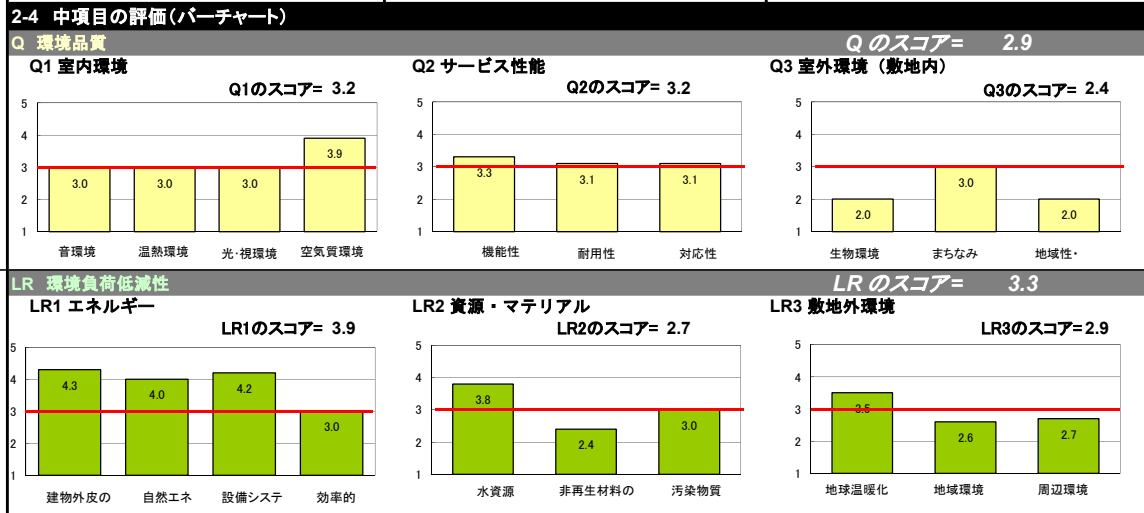
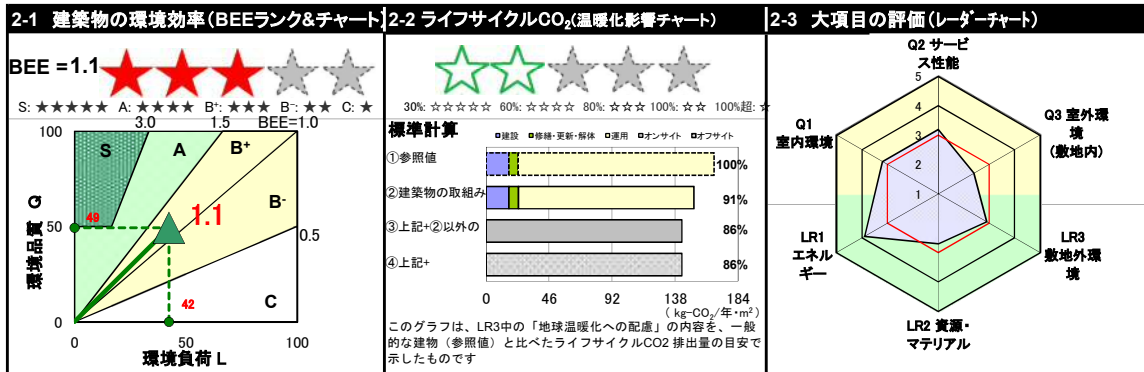


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)イケア長久手プロジェクト	階数	地上3F
建設地	長久手市公園西駅周辺土地区画整	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	7,206 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年7月1日
敷地面積	47,897 m ²	作成者	山田啓貴
建築面積	30,937 m ²	確認日	2016年7月1日
延床面積	56,927 m ²	確認者	早矢仕 英治



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.5	③敷地内の緑化	2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 29.8 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用	2.7	④地域材の活用	1.0	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音			3.0	0.15					3.0
1.2 遮音			3.0	0.40					3.2
1 開口部遮音性能			3.0	1.00					
2 界壁遮音性能			3.0	-					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-					
1.3 吸音			3.0	0.20					
2 温熱環境									
2.1 室温制御			3.0	0.35					3.0
1 室温			3.0	0.50					
2 外皮性能			3.0	0.50					
3 ゾーン別制御性			3.0	0.17					
2.2 湿度制御			3.0	0.20					
2.3 空調方式			3.0	0.30					
3 光・視環境									
3.1 昼光利用			3.0	0.25					3.0
1 昼光率			3.0	0.50					
2 方位別開口				-					
3 昼光利用設備			3.0	1.00					
3.2 グレア対策				-					
1 昼光制御				-					
3.3 照度			3.0	-					
3.4 照明制御			3.0	0.50					
4 空気質環境									
4.1 発生源対策			3.9	0.25					3.9
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆使用	4.0	0.50					
4.2 換気			4.0	1.00					
1 換気量			3.0	0.30					
2 自然換気性能			3.0	0.50					
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50					
4.3 運用管理			5.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		機械排煙設備を設置	5.0	0.50					
2 喫煙の制御		喫煙室の設置	5.0	0.50					
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ			3.3	0.40					3.2
1 広さ・収納性			3.0	0.40					
2 高度情報通信設備対応				-					
3 バリアフリー計画			3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30					
1 広さ感・景観			3.0	0.33					
2 リフレッシュスペース			3.0	0.33					
3 内装計画			3.0	0.33					
1.3 維持管理			4.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		11項目が該当	5.0	0.50					
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震			3.1	0.31					3.1
1 耐震性			3.0	0.48					
2 免震・制振性能			3.0	0.80					
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.20					
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.33					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.23					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.09					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.08					
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.15					
2.4 信頼性			3.0	0.23					
1 空調・換気設備			3.6	0.19					
2 給排水・衛生設備		非常用発電設備を設置	3.0	0.20					
3 電気設備	②		5.0	0.20					
4 機械・配管支持方法		設計用水平震度KH1.5以上	3.0	0.20					
5 通信・情報設備			3.0	0.20					
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり			3.1	0.29					3.1
1 階高のゆとり			3.0	0.31					
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.60					
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.40					
3.3 設備の更新性			3.0	0.31					
1 空調配管の更新性			3.4	0.38					
2 給排水管の更新性	②		3.0	0.17					
3 電気配線の更新性			3.0	0.17					
4 通信配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく更新・修繕できる	5.0	0.11					
5 設備機器の更新性		仕上げ材を痛めることなく更新・修繕できる	5.0	0.11					
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22					

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数					
						Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-
1	生物環境の保全と創出	独自③	2.0	0.30	-	-	-	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	3.0	0.40	-	-	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	-	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	2.0	0.50	-	-	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	-	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.87	4.3	0.30	-	-	-	-	4.3
2	自然エネルギー利用		地熱利用と太陽光設備を設置	4.0	0.20	-	-	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化			4.2	0.30	-	-	-	-	4.2
	集合住宅以外の評価(3a,3b)		BEI値0.9以下	4.2	1.00	-	-	-	-	
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	-	-	2.7
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	-	-	-	3.8
1.1	節水		省水型機器あり	4.0	0.40	-	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		雨水を利用している	4.0	0.67	-	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.63	-	-	-	-	-	2.4
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自		1.0	0.20	-	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	0.24	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	-	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:86%	3.5	0.33	-	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				2.6	0.33	-	-	-	-	2.6
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25	-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		汚水処理負荷を高く抑制している	4.0	0.25	-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	4項目該当	5.0	0.25	-	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	-	-	2.7
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-	
1	騒音	独自		3.0	0.33	-	-	-	-	
2	振動	独自		3.0	0.33	-	-	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-	
3.3	光害の抑制			1.6	0.20	-	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)イケア長久手プロジェクト

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:29.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)イケア長久手プロジェクト

計画上の配慮事項	
総合	大型商業施設であることを考慮し、ゆとりある階高設定とし、天井高さを確保した空間とした。
Q1 室内環境	内部仕上げにJIS規格F☆☆☆☆相当を使用し、化学汚染物質の発生の抑制に努めた。
Q2 サービス性能	建物の維持管理のため、清掃や点検のための機能やスペースを充実させた。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の舗装部分を最小限とするため、緑地帯を多く計画し敷地内歩行者に配慮した。
LR1 エネルギー	屋上の広範囲に太陽光パネルを配置した。
LR2 資源・マテリアル	躯体と外壁仕上げを容易に分解できる鉄骨造とした。
LR3 敷地外環境	建物利用者用の駐車場・駐輪場を適切に確保し、利便性へ配慮した。また、渋滞が発生しないよう荷捌き用車両等は専用の駐車スペースを設けるとともに、導入路の位置・形状を考慮して設計した。
その他	